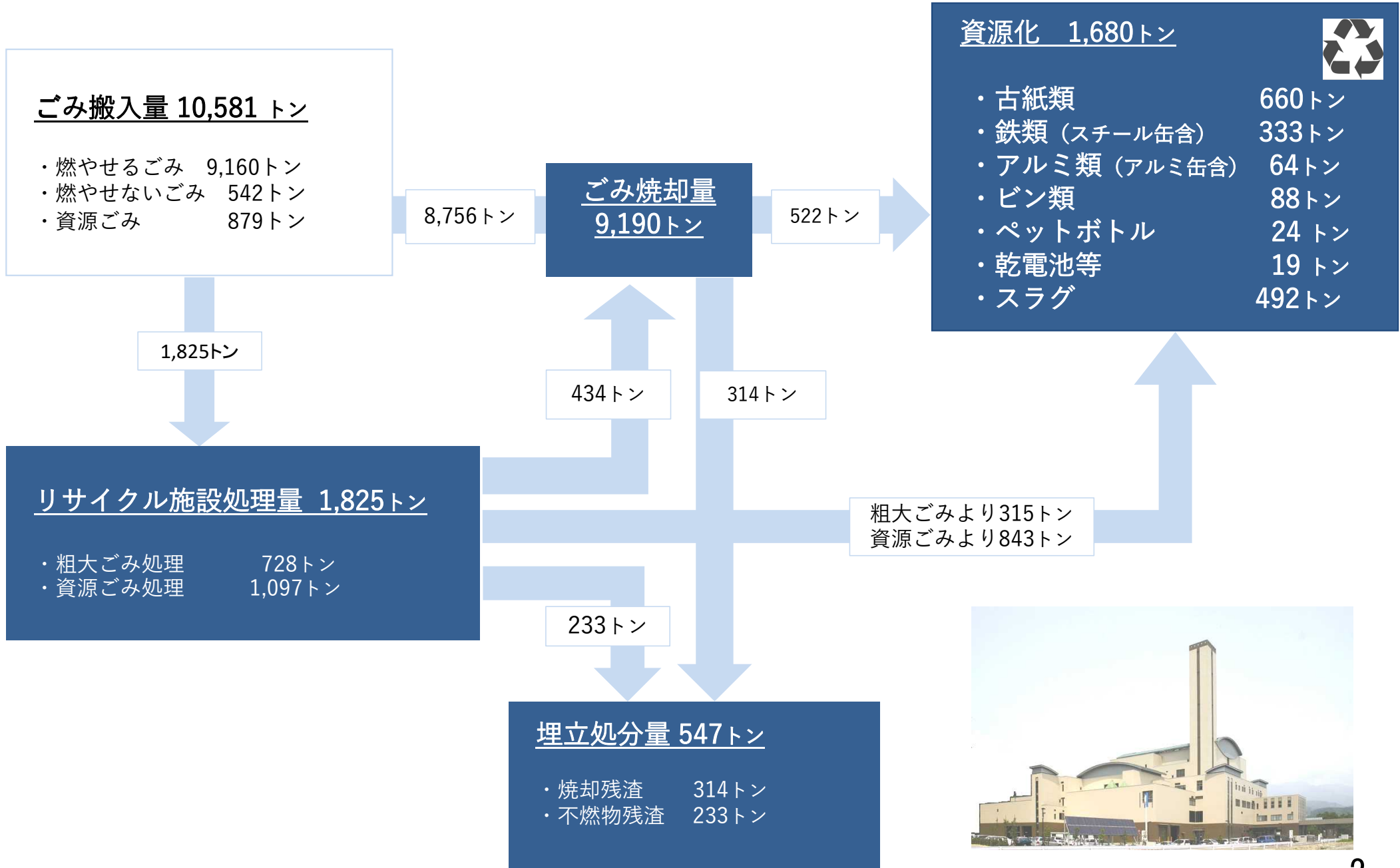


令和4年度大野市ごみ処理概要

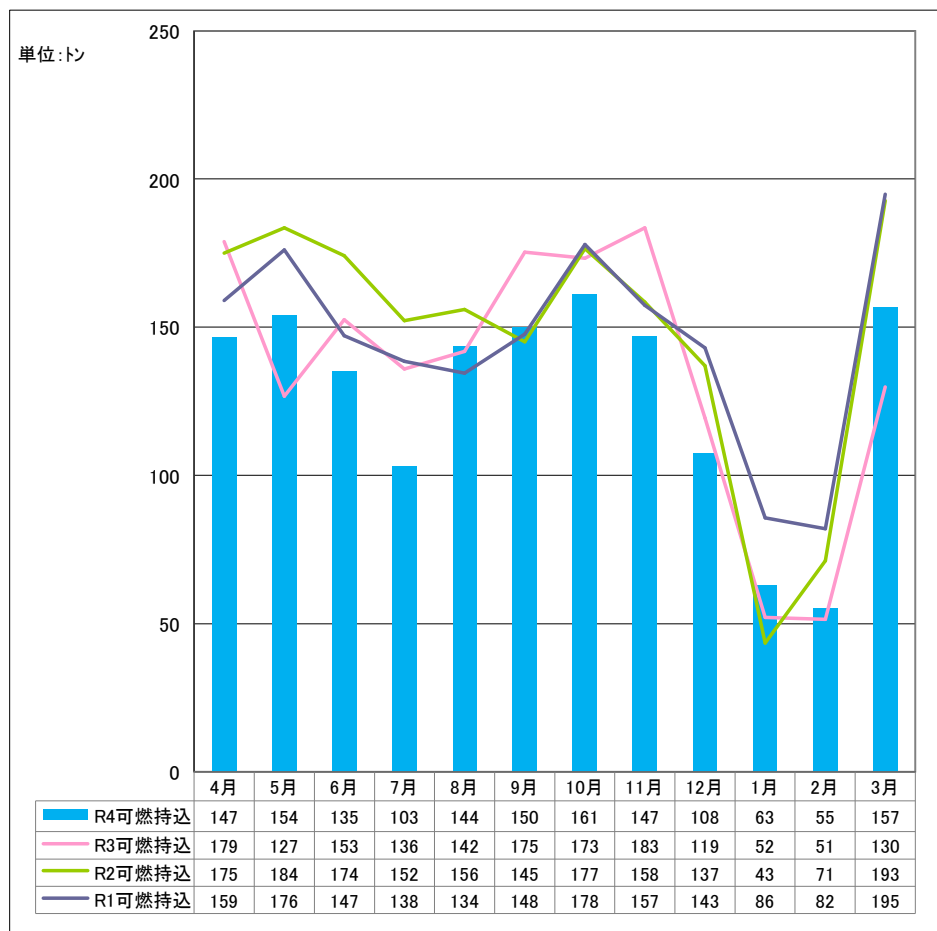
単位【t】

	R2	R3	R4	前年比
外国人含人口 (R4.10.1現在)【人】	32,413	31,779	30,615	96%
1人1日当たりごみ排出量 【g/人・日】	952	941	931	99%
リサイクル率	20.1%	23.0%	20.8%	90%
*リサイクル率 = (資源化量 + 集団回収量) / (搬入ごみ量 + 集団回収量)				
搬入ごみ量	11,259	10,920	10,581	97%
燃やせるごみ	9,737	9,412	9,160	97%
燃やせないごみ	537	529	542	103%
古紙類	626	640	564	88%
ビン類	194	183	164	89%
缶類	99	96	89	93%
ペットボトル	65	59	62	105%
特殊硬質	0	0	0	100%
処理量	11,259	10,920	10,581	97%
焼却量 (ごみ)	9,278	8,979	8,756	98%
粗大ごみ処理施設	749	729	728	100%
資源化施設	1,232	1,212	1,097	90%
資源化量 (売却等)	1,707	2,004	1,680	84%
スラグ	332	701	492	70%
スチール缶	33	33	29	87%
アルミ缶	44	46	42	93%
鉄類 (硬質含)	362	318	304	96%
アルミ類	31	29	22	75%
古紙類	733	733	660	90%
ビン類	115	102	88	86%
ペットボトル	37	28	24	84%
乾電池等	9	5	10	207%
テープ類	11	9	9	100%
集団回収	698	660	658	100%
古紙類	240	215	209	97%
缶類	1	1	1	100%
魚残	51	50	48	96%
福祉会	37	38	50	132%
スーパー	369	356	348	98%

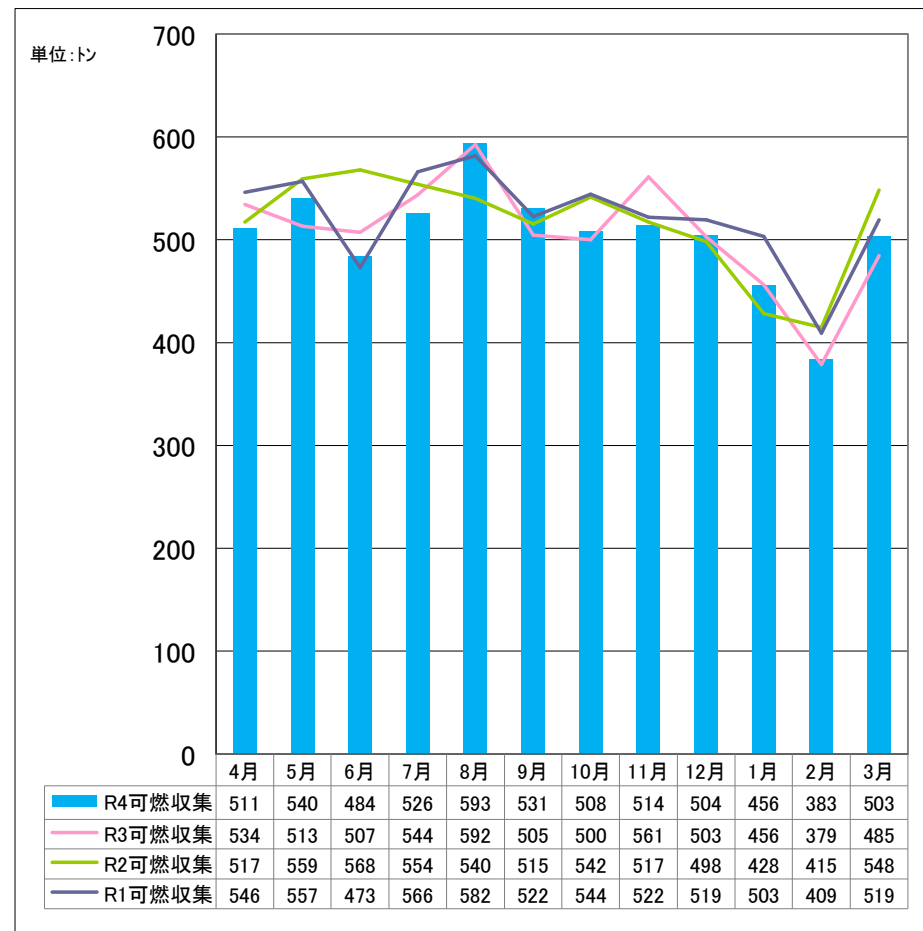
令和4年度 大野市のごみ処理量



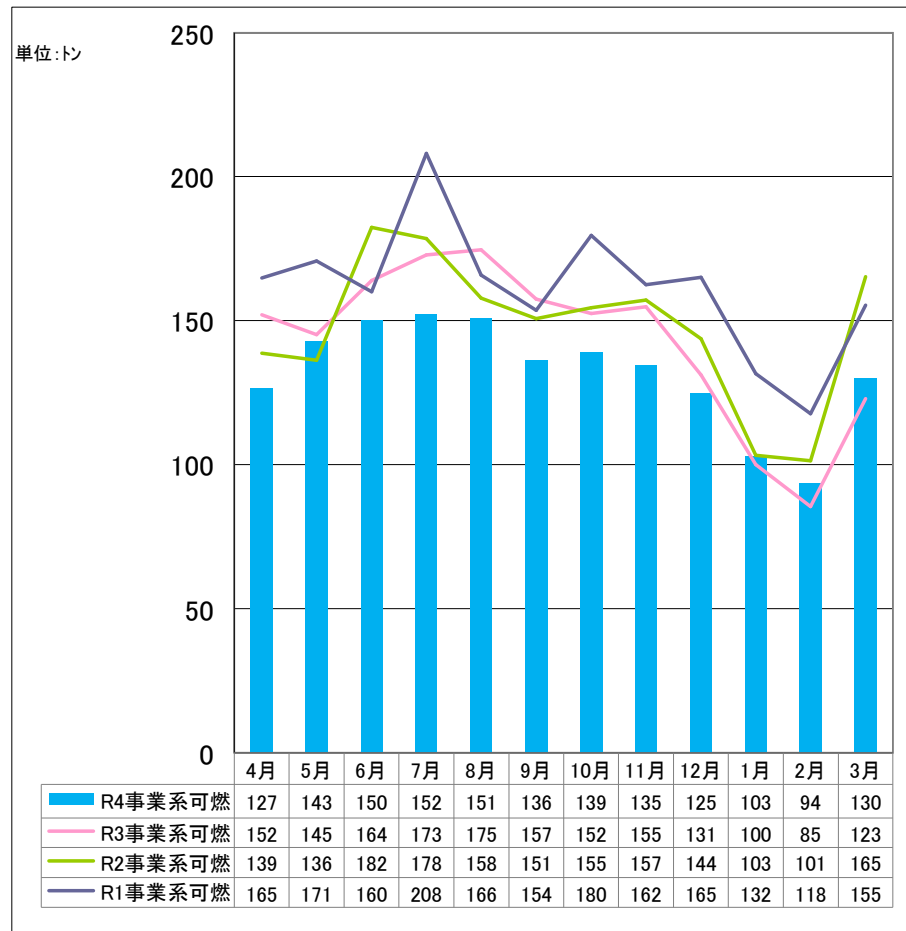
年度別月別ごみ搬入の推移（家庭系可燃物、持ち込み）



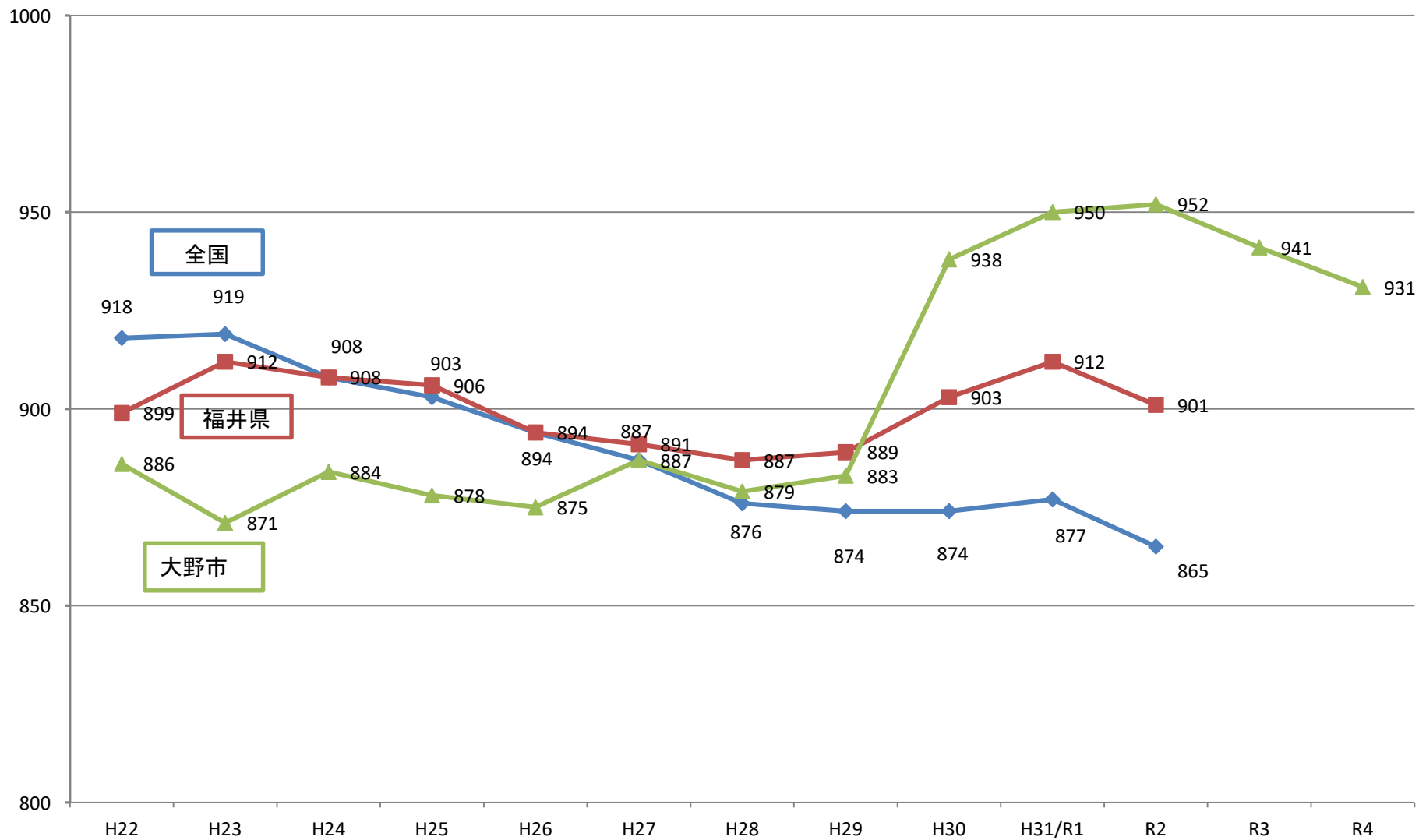
年度別月別ごみ搬入の推移（家庭系可燃物、収集）



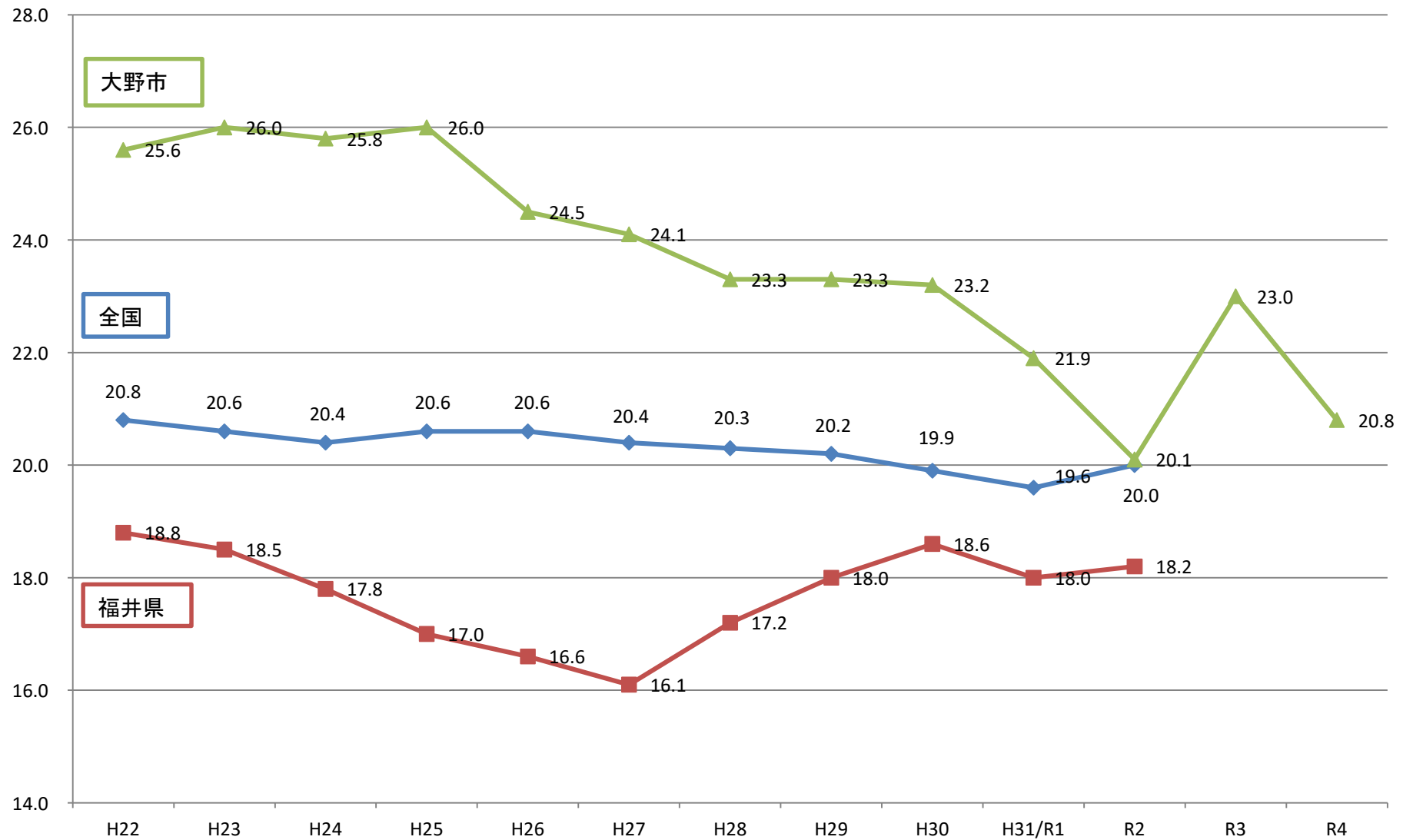
年度別月別ごみ搬入の推移（事業系可燃）



1人1日当たりごみ排出量の推移【g／人・日】



リサイクル率の推移 【%】



廃棄物減量および資源化に向けた主な取り組み（毎年実施している市の取り組み）

取り組み	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
ごみの分別・減量についての啓発 [継続] 【内容】 ごみの分別・減量について、各種講座で説明。	(わく湧くお届け講座) 6回 101人 (外国人技能実習生研修) 3回 60人 (小学校出前講座) 5回 97人	((わく湧くお届け講座) 2回 14人 (外国人技能実習生研修) 0回 0人 (小学校出前講座) 5回 112人	(わく湧くお届け講座) 2回 21人 (外国人技能実習生研修) 8回 186人 (小学校出前講座) 4回 107人
資源有効利用促進事業補助 [継続] 【内容】 古紙類の集団回収に対して補助を行う。(6円/1kg)	(参加団体) 40団体 (回収量) 240トン (補助金額) 1,439千円	(参加団体) 39団体 (回収量) 215トン (補助金額) 1,293千円	(参加団体) 38団体 (回収量) 209トン (補助金額) 1,256千円
シュレッダー紙くずの資源化 [H23年度から] 【内容】 事業所から排出されるシュレッダー紙くずについて、資源化する。 シュレッダー紙くずは、直接古紙回収業者に持ち込むか、ビュークリーンおくえつに持ち込む。	(大野市役所からの資源化量) 1.86トン (ビュークリーンおくえつからの資源化量) 5.91トン (大野・勝山の合計)	(大野市役所からの資源化量) 2.40トン (ビュークリーンおくえつからの資源化量) 5.98トン (大野・勝山の合計)	(大野市役所からの資源化量) 11.2トン (ビュークリーンおくえつからの資源化量) 5.76トン (大野市のみ)
フードドライブの実施 [継続] 【内容】 福井県民生活協同組合と連携し、各家庭の余剰食品の寄付を受付。集まった食品は、大野市自立相談支援センター、児童養護施設等へ寄贈。	—	(令和3年12月実施分) 食品(点数) 853点 食品(kg) 337.5kg 米 650kg	(令和4年6月実施分) 食品(点数) 607点 食品(kg) 173.9kg 米 213.5kg (令和4年12月実施分) 食品(点数) 908点 食品(kg) 177.0kg 米 585.0kg

取り組み	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
宅配便を活用した使用済み小型家電リサイクルの推進 〔継続〕 【内容】 小型家電リサイクル法に基づく環境省・経済産業省の認定事業者であるリネットジャパンリサイクル株式会社と協定を締結（令和3年12月）。宅配便を活用した小型家電の回収サービスに参加。	—	（令和3年12月～令和4年3月末） 申込件数 34件 回収合計重量 353.7kg ※パソコン（50台）、携帯電話（14台）、その他小型家電含む	（令和4年4月～令和5年1月末） 申込件数 108件 回収合計重量 1235.1kg ※パソコン（171台）、携帯電話（66台）、その他小型家電含む

【その他の取組】

○イベントでの**食品ロス削減啓発パネル展示**

越前おおの食守フェスタにおいて、食品ロス削減に関するパネル展示を実施
 ・令和4年10月8日（土）～9日（日）

○**家庭用生ごみ処理機使用モニター**

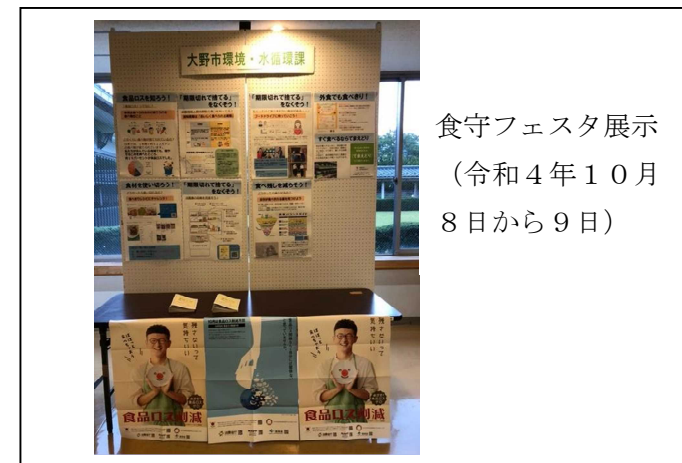
大野市消費者グループ連絡協議会に委託。
 生ごみの投入量等使用状況と、生ごみの減量化、堆肥化についての成果や課題について報告。

【成果】

電気式生ごみ処理機（5台） 377.6kgの減量
 バイオ式生ごみ処理機（5台） 104.5kgの減量 合計 482.1kgの生ごみ減量効果あり

【課題】

- ・各家庭で生ごみ処理機を使った生ごみの減量化、たい肥化を普及させるためには、
 - ①購入にかかる費用の負担軽減のため、家庭用生ごみ処理機購入時の補助制度などが必要。
 - ②市民への周知の際は、処理後の生成物はたい肥として利用でき、家庭菜園やガーデニングなどで活用できることをメリットとして強調することが重要。
 - ③生ごみは水分を多く含み、焼却に大きなエネルギーが必要であること、また、それによって市のごみ処理にかかる経費が増大することなどを併せて説明することが重要。
- ・家庭で取り組む生ごみ処理だけでは限界があるため、地区単位や市全体で取り組むことができる生ごみの減量化やたい肥化の取り組みを検討する必要がある。



廃棄物減量および資源化に向けた主な取り組み（事業者等の取り組み）

取り組み	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
<p>大野福祉会による缶類の市内拠点回収・資源化 [H20年度から]</p> <p>【内容】 障害者自立支援事業として市内の約130箇所の事業所等拠点から、缶類、ペットボトルを回収し資源化を行う。</p>	<p>【回収量】</p> <p>スチール缶 8.4トン アルミ缶 9.4トン ペットボトル <u>19.1トン</u> 合計 36.9トン</p>	<p>【回収量】</p> <p>スチール缶 9.0トン アルミ缶 7.7トン ペットボトル <u>21.6トン</u> 合計 38.3トン</p>	<p>【回収量】</p> <p>スチール缶 12.5トン アルミ缶 10.2トン ペットボトル <u>27.7トン</u> 合計 50.4トン</p>
<p>スーパーによる店頭での資源回収 [H23年度から]</p> <p>【内容】 スーパーの取り組みにより、店頭で資源物（缶類、ペットボトル、古紙類）の回収を行う。</p>	<p>【回収量】</p> <p>缶類 16.7トン ペットボトル 26.0トン <u>古紙類 326.0トン</u> 合計 368.7トン</p>	<p>【回収量】</p> <p>缶類 14.6トン ペットボトル 22.9トン <u>古紙類 318.3トン</u> 合計 355.8トン</p>	<p>【回収量】</p> <p>缶類 14.1トン ペットボトル 24.2トン <u>古紙類 309.5トン</u> 合計 347.8トン</p>
<p>生ごみのたい肥化 [H24年度から]</p> <p>【内容】 消費者団体が中心となって、陽明中学校に設置している生ごみ処理機で、給食の調理くずなどを利用した堆肥の生成を行う。</p>	<p>1,393kgの生ごみを投入</p>	<p>858kgの生ごみを投入</p>	<p>—</p>

【その他の取組】

○事業系ごみの出し方ガイドブックの作成と配布（大野・勝山地区広域行政事務組合）

令和4年度中に大野・勝山地区広域行政事務組合が作成、配布を行った。

事業者から排出される廃棄物は、一般廃棄物と産業廃棄物に分けられるが、改めて受入れ基準を明確にし、周知を行った。

（例）・事業系一般廃棄物とみなすもの（原則産業廃棄物であるが、事業系一般廃棄物とみなすもの）

従業員の飲食に伴うものと資源化ができるもの（弁当のプラ容器、プラスチック製のスプーン・フォーク、びん・缶類、ペットボトルなど）

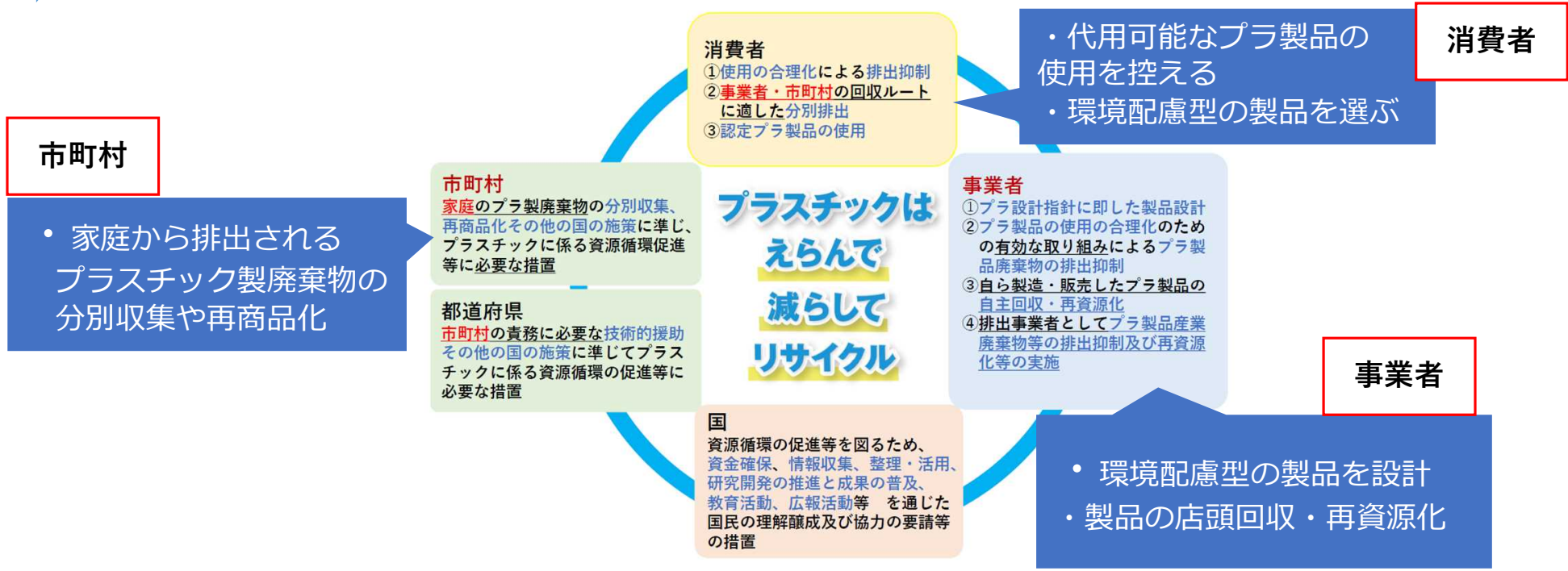
プラスチックごみの分別収集開始について

1. プラスチックごみを巡る現状

- ・ 海洋プラスチック問題 （福井県の調査（2021年実施）では、海岸漂着物の9割以上がプラごみ）
- ・ 気候変動 （プラスチックの原料は石油であり、地球温暖化と密接な関わりがある）
- ・ 諸外国の廃棄物輸入規制強化 （廃プラスチックを国内で処理しなければならない）



➡ プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（令和4年4月1日施行）



2. 検討経過

- ・プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行（令和4年4月1日）
- ・大野市ゼロカーボンシティ宣言（令和3年3月）

⇒ 令和3年度～

サーマルリサイクルしてきたプラスチックごみの取扱いの見直しの検討を開始
(大野・勝山地区広域行政事務組合、大野市、勝山市)

【検討・事前調査の内容】

- ① 中間処理施設、保管場所の検討
- ② ごみに含まれるプラスチックごみ量の調査
- ③ リサイクル業者（県内2社）に対し、リサイクル方法や引き渡し方法を聞き取り

参考：プラスチックごみの分別回収後のリサイクル方法

- 方法1 マテリアルリサイクル・・・新たな製品の原料として再利用すること
- 方法2 R P F（廃プラスチック類を原料とした固形燃料）への再利用
- 方法3 焼却処分（サーマルリサイクル）



【結果】

- ① 現施設内に残地がなく、**新たな施設の建設は困難。**
- ② 全量をリサイクルした場合、ごみ搬入量の約17%にあたり、**一時保管場所がない。**
- ③ マテリアルリサイクル可能な品目がポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリスチレンのみであり、その他はR P Fの原料となるか焼却処分となる。

3. 方針①

【方針】 マテリアルリサイクル可能なプラスチックごみの分別収集を新たに実施する

理由

- ・多額の費用をかけてすべてのプラスチックを分別収集しても、大部分が固形燃料化（サーマルリサイクル）
- ・ビュークリーンおくえつの施設でサーマルリサイクルが可能
（あっ宝んどの熱源利用、降雪時のロードヒーティングへの利用など）

プラスチックごみとして分別収集する品目（案）

すべてプラスチック素材でできているもので、汚れが付着していない下記のもの

食器類	茶碗 コップ 皿 スプーン など
調理器具類	計量カップ ざる ボウル タッパー など
文具類	クリアファイル レターケース 下敷き 定規 など
ハンガー	※クリーニングハンガーはご利用の店舗へ
ビニール袋	買い物袋 包装袋 保管袋
衛生用品類	バケツ 洗面器 洗濯かご など
発泡スチロール	
CDケース類	CDケース DVDケース BRディスクケース



3. 方針②

対象外品の例（案）

- ・汚れているもの、汚れが落ちにくいもの
- ・県内事業所ではマテリアルリサイクルができないもの
- ・分別が分かりにくいもの

⇒ 燃やせるごみへ（サーマルリサイクル）

収集方法（案）

- ・地区のごみステーションへ
- ・大野市推奨ごみ袋を使用（少量の場合は、その他半透明の袋で出すことも可）
- ・2週に1回の頻度で収集



※買い物袋等は
分別収集対象

ごみ収集カレンダー（案） ※青地区の場合

現行

4月						
日	月	火	水	木	金	土
	不燃 特殊 硬質	可燃	資源	古紙類	可燃	
						1
2	3	4	5	ビン類	6	8
9	10	11	12	缶類	13	15
16	17	18	19	ペットボトル	20	22
23 休日要付	24	25	26	缶類	27	29



変更後

4月						
日	月	火	水	木	金	土
	不燃・ビン類 缶類	可燃	資源	古紙類	可燃	
3/31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28 休日	29	30				

3. 方針③

今後のスケジュール（案）

- ・ 5月、6月 各区長会に説明
- ・ 10月～翌2月 住民説明会の実施
- ・ 令和6年4月～ 分別収集開始

周知方法（案）

- ・ 住民説明会の実施
 - 方法1 各公民館単位での開催
 - 方法2 希望があった行政区での開催
- ・ 「広報おおの」による周知
 - 1月号から連続して掲載することを予定
- ・ 広報用動画の配信
 - 住民説明会を含め、市公式LINEやホームページで公開

その他

- ・ ごみの分類と早見表の見直し（3月ごろ配付予定）
- ・ ごみステーション用看板の更新及び配付
- ・ プラスチックごみの分別方法とあわせて、ごみの減量、分別の徹底について再度周知を行う